

きれいな水をみんなで守れ！

SDGsラジオを讀んでみよう！

お風呂やトイレの水が、どこへ行くか知っていますか？実は、使い終わった水は、川や海へと流れていきます。

私たちは毎日、たくさんの水を使います。使って汚れた水を「廃水」といい、

そのまま川や海に流すと、自然や人の健康に悪いことが起きてしまいます。

そこで、廃水をきれいにする施設で、汚れた水をきれいにしてから川や海に流しています。

だからといって、どれだけ水を汚してもいいというわけではありません。

こうした廃水をきれいにする施設にも、きれいにできる水の量や種類には限界があります。

たとえば、台風や洪水などが起こると処理が追いつかなくなり、汚れた水がそのまま川や海に流れてしまうんです。

だからこそ、限りあるきれいな水を守るためには、「きれいにしてから流す」という一人ひとりの心がけが大切。

みなさんは自分にどんなことができるか？考えてみてくださいね。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



がぞうさんしょう はいすい
画像参照：廃水について

(オルガノSDGs教材「廃水」授業スライドより)



がぞうさんしょう はいすい しせつ
画像参照：廃水をきれいにする施設

(オルガノ公式HPより)

お風呂やトイレ、洗濯やお血洗いなど、私たちは毎日たくさんの水を使いますが、くらししています。使われて汚れた水のことを「廃水」といい、廃水は川や海に流れていきます。そして、その水が汚れていると、さまざまな問題が起こります。たとえば、川や海の水がぐさくさになったり、そこにくらす生きものがすみにくくなったりします。また、汚れた水には人の身体によくないものがふくまれていることもあり、その水を使うことで病気につながるおそれもあります。そこで、汚れた水をきれいにする施設「下水処理場」では、廃水をきれいにしてから川や海に流しています。こうしたしくみがあることで、私たちの健康や、川や海の環境が守られています。

しかし、廃水をきれいにする施設「下水処理場」があるからといって、何でも自由に流していいというわけではありません。この施設できれいにできる水の量や種類には、限界があります。たとえば、台風や洪水で水の量が一気に増えたり、油やゴミが多く流れこんだりすると施設での処理が追いつかず、汚れた水がそのまま川や海に流れてしまうこともあります。「下水処理場」で廃水をきれいにしてもらう前に、石けんや洗剤を使わずに、台所のシンクに油や生ゴミを流さないことなど、私たちにできることもたくさんあります。地球には水がたくさんあるように見えますが、人が使える水は全体のわずか10000分の1しかなく、限りのある大切な資源です。「水をきれいにしてから流す」ということを、一人ひとりができれば、地球の限られた水を未来につなぐ大きな力になるはずですよ。

キーワード

廃水

お風呂やトイレ、台所などで使われて、汚れてしまった水のことです。廃水には、食べ物のかすや油、洗剤の成分、目に見えない細菌などがふくまれています。

下水処理場

まちや家庭から集められた廃水を、段階的にきれいにする施設です。ゴミを取りのぞいたり、水の汚れや細菌を減らして、水をまた使えるようにしています。

資源

人のくらしや社会を支えるために使われる、自然のめぐみのことです。水や木、石油などが資源にあたります。資源には限りがあるため、大切に使うことが必要です。

対象ゴール



みなさんにできること！

水をなるべく汚さないためにできることはなんですか？考えてみてください。

- おさらい
- 使った汚れた水を「廃水」といい、そのまま流すと自然や人の身体に悪い影響がある。
 - 日本では、汚れた水をきれいにする施設「下水処理場」できれいにしてから川や海に流している。
 - 限りある水を守るためにも、一人ひとりの心がけが大切。

メモ



SDGs ラジオ